

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	1	5	0	カーペット、マットの配置 ソーシャルディスタンスを考えると狭い。
	2	職員の配置数は適切であるか	1	4	1	目標:5~7名/日の利用者に対し、自発管1名、 児童指導員2名以上、看護師1人以上の5~7 名/日を配置。休業日の利用人数が多い日に 午前中から入れる職員が少なく人手不足の傾 向がある。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化 の配慮が適切になされているか	6	0	0	施設、設備等、バリアフリー化がされているが、 玄関から部屋までが遠い。出入口の検討をし てほしいという希望がある。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目 標設定と振り返り)に、広く職員が参画して いるか	5	1	0	スタッフミーティングや会議で出た改善目標に ついてはPDCAサイクルを繰り返し、継続的に 事業運営を改善する様に努めている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりア ンケート調査を実施して保護者等の意向等 を把握し、業務改善につなげているか	6	0	0	放課後等デイサービスのガイドラインに基づく 保護者向けアンケートを実施し、意向等を把握 し、業務改善につなげている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報や ホームページ等で公開しているか	4	2	0	事業所内に自己評価の結果を掲示し、公開し ている。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を 業務改善につなげているか	4	2	0	近くにお住まいの方を第三者委員に選任し、地 域住民の立場から、本事業所のサービスに対 するご意見をいただき、事業運営の一層の改 善を図れる様にしている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機 会を確保しているか	5	0	1	社内、社外研修はあるがまだ不十分という意 見がある。
適切な支 援の提 供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護 者のニーズや課題を客観的に分析した上で、 放課後等デイサービス計画を作成している か	6	0	0	契約時に丁寧にアセスメントを行い、子どもと保護 者のニーズや課題客観的に分析した上で、個別の支援 計画を作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標 準化されたアセスメントツールを使用してい るか	5	0	1	標準化されたアセスメントツールを参考に、重心対応 の施設として独自に構築されてきたノウハウなども合 わせて、一人ひとり違う子どもの適応行動の状況を 図ることにより、効果的な支援が行える様にしてい る。
	11	活動プログラムの立案をチームで行ってい るか	5	1	0	自発管、児童指導員など主たる支援スタッフ(チ ーム)で、活動プログラムの立案から実行までを行って いる。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫し ているか	6	0	0	活動プログラムの固定化により、子どもの経験が限 られてしまわない様に、会議等で、活動についての 案を出し、児童指導員を中心に計画から実行までの プランを立てている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をき め細やかに設定して支援しているか	3	3	0	平日、長期休暇に応じて、課題を設定して支援をして いる。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活 動を適宜組み合わせ放課後等デイサービ ス計画を作成しているか	5	1	0	一人ひとりの子どもの状況やニーズに応じて、個別 活動(自己選択や自己決定の活動を主)と集団活動 (社会体験活動を主)を組み合わせ計画を作成し ている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、 その日行われる支援の内容や役割分担に ついて確認しているか	4	1	1	支援や送迎開始前には、その日の支援の内容や役 割分担についての確認を行っている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、 その日行われた支援の振り返りを行い、 気付いた点等を共有しているか	4	2	0	帰りの送迎終了後に打ち合わせをし、支援状況につ いての申し送りなど、療育支援システムに入力し、翌 日支援に入る前のスタッフ間の情報の共有を図って いる。
17	日々の支援に関して正しく記録をとることを 徹底し、支援の検証・改善につなげているか	5	1	0	毎日の記録の入力の意識づけをしている。又、支援 の検証・改善につなげている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイ サービス計画の見直しの必要性を判断して いるか	6	0	0	支援やサービスの内容に変更がある場合は、適宜モ ニタリングを行い、半期に1度は必ず見直しを行って いる。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み 合わせて支援を行っているか	5	1	0	ガイドライン総則の基本活動を複数組み合わせ、更 に一人一人に合わせた、スモールステップで目標を 設定し、支援を行っている。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	6	0	0	管理者及び自発管、児童指導員が会議に同席している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	6	0	0	さいたま市のSAMIに登録し、学校からの緊急の情報等の情報共有をしている。又、送迎時には、利用者一覧を渡し、放課後等利用児童・生徒の確認を行なうことで、乗車トラブルなどを防ぎ、対応がスムーズに行える様にしている。お迎え時に学校の担任の教員とも情報交換を行い、学校からデイ、自宅へと繋げ、子ども保護者が安心して過ごせる様に支援している。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	6	0	0	送迎車へも、緊急医療情報パスを携帯し、主治医や掛かりつけの医療機関へすぐ連絡できる様に連絡体制を整えている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	0	5	1	今でも、就学前から利用していた訓練の場など、つながりのある子どもが多いので、情報共有や相互理解に努める様にしている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	6	0	0	移行支援会議などの場で、それまでの支援内容等の情報を提供する等している。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	2	4	0	児童の専門機関での訓練に職員が同行したりして、助言や研修を受けている。
	26	他の社会福祉事業所との交流や、地域におけるボランティアの受け入れ等により、多様な学習・体験・交流活動の機会があるか	0	0	6	他の事業所との交流や不定期であるが、ボランティアの受け入れによる学習や体験の機会を設ける様にしている。今後計画的に受け入れられればと希望がある。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	1	0	5	法人理事長が、発達障害福祉協会・さいたま市社会福祉協議会・さいたま市障がい者施設連絡会・全国障害者生活支援研究会・進路対策検討委員会・南区地域支援会議などの役員会等に参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	6	0	0	送迎時などを主に、子どもの状況を伝えあい、共通理解を持つように心掛けている。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレントトレーニング等の支援を行っているか	0	3	3	子育てに自信を持ち、前向きに向き合える様に、まずは安心感や、信頼感を持って頂ける様な支援に重点を置いている。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	3	3	0	契約時に直接面談を行い、丁寧な説明を行う様にしている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	5	1	0	話を丁寧に伺い、助言をしたり相談支援事業所と連携して、必要であれば、他のサービスを利用しながら、解決をしていける様に支援を行っている。
	32	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか、又、兄弟、祖父母も含めた家族支援が行われているか	1	1	4	不定期ではあるが、必要時には保護者会を開催している。又、兄弟、祖父母を含めた家族支援も、要請があったり、必要時には行っている。他の兄弟との時間を、保護者が作りたいという意向が多くあるので、その場合は利用して頂ける様になるべく調整している。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	6	0	0	苦情解決責任者へ、当日中を目標に、迅速に報告する体制を整えている。苦情があった場合は迅速にかつ適切に対応を行うように心掛けている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	5	1	0	日々の活動については、当日中に、記録票や送迎の際に、口頭でお伝えする様にしている。法人で発行している広報誌(年4回)があるがそのうち2回、キッズの保護者へ向けたお便りを3か月に1度配布している。
	35	個人情報に十分注意しているか	6	0	0	入職時の説明や、日々の業務の中でも、個人情報の扱いには十分注意しながら、業務にあたっている。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	6	0	0	適切な支援の提供のために、重度の障害のある子どもとの意思の疎通の為の工夫や配慮を大切にすることを心掛けている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	1	2	3	事業所の行事が減少、縮小し地域との交流は少ない。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、感染症対応マニュアルなど、地域特性及び、事業所特性に応じたマニュアルの整備を策定し、保護者に周知・説明されているか	3	3	0	法人内で策定されているマニュアルを主に用い、事業所の特性に応じたマニュアルを使用している。現在地震・水害時のマニュアルを法人内で検討中。今後の課題は防犯マニュアルの作成。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	6	0	0	年2回、避難訓練(デイセンターと合同含む)を行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	4	2	0	研修への参加や、会議等を通じ、虐待防止に関する法令の理解に努めている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	2	4	0	組織的に支援計画へ具体的に記載する方向で進めている。安全面への配慮の理由で、やむを得ず行う場合でも、子どもや保護者へ了解を得たうえで、行なう様にしている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	5	1	0	行事等で食べ物を扱う際は十分に気をつけ、注入に関しては、医師の指示書に基づいた栄養剤等を使用し、重症の子どもは、使用する物品を保護者と相談しながら、慎重に行う様にしている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	6	0	0	ヒヤリハットについては、毎回会議で確認を行い、記録に残している。緊急度に応じては再発防止策を職員間で直ぐに検討し、翌日には周知、業務改善に繋げる様にしている。